

セグロウリミバエの**不妊虫放飼**が開始されます！

■不妊虫放飼には様々な方法があります

①ヘリでの放飼



②カゴでの放飼 (蛹サナギ放飼)

さわらない
でね！



地域の状況に合わせ
様々な方法で放飼します！

③人力での放飼 (成虫放飼)



増殖中の不妊虫

■引き続き、以下の対策も行っています。

トラップ調査



果実調査



ベイト剤の散布

※人畜に安全性の
高い薬剤を使用
しています



誘殺板の設置



県
から
の
お
ね
が
い

- 県では不妊虫放飼によるセグロウリミバエの根絶を目指していますが、家庭菜園などでの発生源が多いと根絶に時間を要し、農業生産にも、長期間、悪影響を及ぼします。
- 根絶は県民の皆様の協力なくしては達成できません。**引き続き、家庭菜園でのウリ科作物の栽培自粛など、ご協力をお願い申し上げます。
(詳しくは裏面もご覧ください。)

▶沖縄県病害虫防除技術センター

[TEL:098-886-3880](tel:098-886-3880)

詳しくはこちら！ >>>



家庭菜園でのウリ科作物の栽培自粛を あらためてお願いいたします

■ 栽培自粛をお願いしたいウリ科作物の例



かぼちゃ



へちま



にがうり



とうがん



赤毛瓜(モーウイ)



きゅうり



ズッキーニ



すいか



ゆがお



メロン



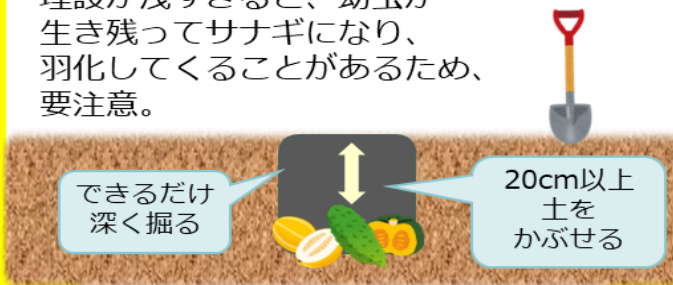
まくわうり

その他
ウリ全般

どうしても栽培したい場合は… セグロウリミバエの発生源とならないよう
不要果実を適切に処分してください。

①埋設処理

- 寄生が疑われる果実や残渣等を、農家圃場や家庭菜園の隅に穴を掘って埋設処分する。その際、できるだけ深い穴を掘り、20cm以上の厚さの土をかぶせる。
- 埋設が浅すぎると、幼虫が生き残ってサナギになり、羽化してくることがあるため、要注意。



②密閉・陽熱処理

- 寄生が疑われる果実や残渣等を穴などない丈夫なビニール袋に入れて密閉し、虫が死滅するまで太陽熱で蒸し込む。
(夏場の青天なら1週間、冬場は1か月程度が目安)
- 処理後は地域のルールに従って処分する。
(お住いの自治体に別途ご相談ください。)



③茎葉の早期片付け

- ウリ科野菜は収穫後も枯れずに果実や雌花を付け続けるため、収穫後はトラクターで早めに茎葉をすき込み片づける。
- 不要な果実が圃場に残っていると、すき込み後に発芽・生育してくる場合があるので不要果実は①②の方法で事前に処理しておく。



④冷凍処理

- 家庭菜園等で量が少なければ、冷凍処理という方法もある。
- ビニール袋などに密閉して冷凍庫で2～3日間凍らせ虫が死滅してから家庭ゴミとして処分する。

